

823  
MSN2

紙  
以  
入  
華

高  
士  
云

19

The first part of the book  
 is devoted to a general  
 description of the  
 country and its  
 inhabitants. The  
 author then proceeds  
 to a detailed account  
 of the various  
 tribes and their  
 customs. The  
 second part of the  
 book is a history  
 of the country from  
 the earliest times  
 to the present day.  
 The author has  
 collected a great  
 amount of material  
 for this work, and  
 has written it in a  
 clear and concise  
 style. It is a  
 valuable work for  
 all who are  
 interested in the  
 history and  
 geography of the  
 country.

唐雲

元一歲

元一歲

大井室冬住居子

明石姫君可奉治二条院有讓夏

十二月姫君可奉治二条院子

同日名簿子

元一歲

正月出大井給子

源氏川筆明石彈比巴子

松政左政大長薨子

天愛頻示子

二月入后之清惱子

行奉之条子

入道之崩清夏三十七歲

法務僧都假宿君之次与主上清物給子 全上為源氏次子

桃室中務宣文薨子 之為式了也

源氏可任左政大臣之由有清氣父源氏因辞る

秋加階并總牛車兼内侍

樽中納言任大納言急大納言

王命御任清通殿る源氏同格る

母之女清出三条院格る

任左殿名源氏乃父子儀る

源氏系母之女清方清也る女弟秋好る

又源氏上西對清物語る女弟秋好る

源氏井里格る

源氏

源氏秋好る名

源氏

又源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

源氏名清乃父子儀る

そりありけきしははははははは

是は井此里はし

或津説をよなりは川風をきしうりてふりて公をきてはし  
うそのそつたり

又源をきしうりてはし  
君しわうてはし  
かのらうてはし

はしき亦おわくうらむとそんし  
会りりりり男はつ小くは主くおんあきおれは公さういふあうてはし  
ちうらぬとらりおれはねとらうてはし

宿うてきまつらうてはし  
後撰土 日向仍 比 釘吉かうてはし

ら多うてはし  
さゆはうてはし

私ち井は後をせんはし

経をくあそはし  
多くおんたそんし

後撰よりり女はははははは

いよいよいよたりとらり  
らうそこの後さそ人のつうてはし

私ば分の公ははし  
所てんこのらり君と

まら姫君はし  
かそこのこびあきりたり

きいよきしおさうてはし  
くくぬきれりたりと

明石姫君はし  
一動大畧之案時よりはし

あきばはし  
動例はし

さおはし  
明石はし

わくはし  
はし





明石のゆきをいぢりしつゝあつたむすしりしゆん又程未り  
帝のゆきつられずしつん是し親王の女をさるのきしん(腰の  
るい不足言とりしゆん

又みこつらち書の内後としんむ 或は子つらち書内後としんむ

ついで内後あつととりなりしゆんむつひつらち書内後  
の公内後のゆき書後のゆきしり此書とは書後のゆきをいぢ  
こしむつひつら

<sup>秘</sup>しり此後しんむつらち書内後としんむ  
とつひつらち書内後としんむ

親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ  
しり此中しり親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ  
とつひつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ  
親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ

しり此中しり親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ

しり此中しり親王はつらち書内後としんむ

親王はつらち書内後としんむ

親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ  
親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ  
親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ  
親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ

親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ  
親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ

親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ

親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ

親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ

親王はつらち書内後としんむ 親王はつらち書内後としんむ







わきうそぎのわとわき

わきうそぎのわとわき

秘 少姫をきこさしげし原の髪をくしこ 舞月

よその物よそいぬんかとのをれやまお たらりり

原の命よは姫君とあらり寝る明石といつたらりあきくらをせし

たらり寝るをくらう したあくよ宮いあそく夜一夜をぬく

あき少あきしうたらり けあきといあをえはまうらあき

かたさぬくのぬあうらり 中義日一又のくまい飽と

云々あきうあけとやううあきこくま物とこのまきりあき

すうとあきこはまうたらり又二条園へまさんともおとれを

はあしあきうらりこととあああ

秘 わきうそぎのわとわき たらりりあき たらりりあき

はあきよりあきをぬりしこ 秘 たらりりあき たらりりあき

あき少あきくくらあき 秘 たらりりあき たらりりあき

あきうそぎのわとわき 秘 たらりりあき たらりりあき

たらりりあき

秘 たらりりあき たらりりあき たらりりあき

人のそのおとほくまよと葉のどあとのあき たらりりあき

あきあきいあきとあきあきあきあきあきあきあき

秘 姫君いたうよおとあきあきあきあきあきあきあき

たらりりあき たらりりあき たらりりあき

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

秘 招風をよはりあきあきあきあきあきあきあき

たらりりあき たらりりあき たらりりあき

秘 たらりりあき たらりりあき たらりりあき

秘 種ととくくのりあきと 明石との種ととくく車よのりあき

秘 姫君あきあきあき

秘 たらりりあき たらりりあき たらりりあき

秘 たらりりあき たらりりあき たらりりあき

秘 たらりりあき たらりりあき たらりりあき

秘 たらりりあき たらりりあき たらりりあき

秘 たらりりあき たらりりあき たらりりあき

秘 たらりりあき たらりりあき たらりりあき













秘 ぼあどの書きまうくまう ぼあどとたり

か こいといのとわうん ち井ねあどとわうくまうあしと

いりうれあどいあし ぼあどいあし ぼあどい

きうよのつこのあしよ ぼあどいあし

わとわうりうとあしよ ぼあどいあし

いああどいあし ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

いりあしよとあしよ ぼあどいあし

物の上はれかりしつら白くは海よ草葉の字よ歎止不震あり  
秘 何海草葉と必名すよ見しはれしかりしつら草葉紙よいふ  
まじくしとわりはらるるを起色の白く

秘 和名を正しくしぬと申す

ワラ君はれしとわすし

わらうらふおあはれと

秘 神おあはれあり

秘 源のご福しきまぬこいはくしとくせしししり物とまじり

まじりたるはれしとまじり

らう義内てつらつらとのたしよありしちまきつりしは

は二ヶ所よは格ふと綱むらつと陪格のくかすしわはれしとくせし

らうまきつりしはつらとまきつりしはち井あはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

又いとあはれしよ

秘 ち井は室あはれしとまかすはなすはれしとくせし

秘 女しつら白くは海よ草葉の字よ歎止不震あり

女しつら白くは海よ草葉の字よ歎止不震あり

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし

秘 此のいふやうしめさぬとまかすはなすはれしとくせし





ありて又いませうと云うことなり

本草下根と云ふよりと云 唐書に云く一のりて人の下り

と云あり根といふゆゑなり

月丁らなる事と云ふなり 是よりさうて奴女房の習うことなり

唐書にいふくたこなりといひあり

わうと云ふことなり 聖武天皇神龜二年柑子從無國

植種結子又本草云柑子无毒 仍病者宜食飲

再柑子無毒病者の用物と云ふ事ありと云ふなり

必柑子之毒在病者も食すと云ふ事ありと云ふなり 必名の原へて柑子と云ふ事あり

唐の和名いふ事あり 寛平二年勅允大内源融園白事暫依病有親愛如故

寛平遺誠云右大内已薨言而無驗

必是の和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事ありと云ふ事あり

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事ありと云ふ事あり

いふ事ありはよりと云ふ事あり 必柑子之毒在病者も食すと云ふ事あり

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事あり

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事あり

必柑子之毒在病者も食すと云ふ事あり

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事あり

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事あり

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事あり

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事あり

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事あり

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事あり

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事あり

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事あり

論衡曰人之死也於火之滅灯滅而耀不照人死而智不惠

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事あり

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事あり

和名は唐の和名よりて唐氏君の政と云ふ事あり

史記注楊冠子曰德万











こゑのちりらん

必 成文の爲書き位とより治らんやと定すこ

いとわのまうま

必 原の初

さうくーキ世あり

必 踏のさうーキ世あるとよりの他りしと

ひーのんーの世うと

必 聖代りて性あるとわりの漢家

必 不勝斗しととたうさあありての

必 竟湯負洪水大旱之責宗成王有唯雉難難迅風之變雖有小異

必 不失天德 後漢皇右記上 和喜鄧皇右傳 及成王司夏人

必 或譏周公之奔走 史記周公世家 貞觀政要曰黃帝与蚩尤

必 七十餘戰其乱甚矣既勝之後便致太平九黎乱德顓頊之既

必 尅之後不失其治桀為暴虐而湯放之在湯之代昂致太平紂

必 為无道武王伐之成王之代亦致太平

必 我朝廷喜聖代管亦在迂夏以下欽和漢先蹤不可勝計

必 ちしてとりりれ 必 後は古書つた文竟りしよりいれれと

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり

必 ちかうたりりありを也ととなり



只して源と親をいふなり

和皇と天子の位と譲らんとせんはあり

元仁天皇 元大納言 宇多天皇

一世源氏恒友 已後即位例

元仁天皇 元大納言 桓武天皇

元孝天皇 元二品 宇多天皇

同親五例

武部は是忠親王

元孝八年四月十三日 初原恒寛平二年十二月廿九日

太宰帥是貞親王

立親王元中納言恒之位 初原恒恒在中納言恒親王

中務は兼明親王

貞元二年四月為親王 大正二位源氏

上野太守盛明親王

康保四年七月為親王 源氏大藏正五位下

初一世の源氏といふ天子は清子の姓とあり

人々をいふは

源氏皇女おのり

源氏皇女おのり

秋のつるさけり

源氏皇女おのり

源氏皇女おのり

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

徳仁天皇は徳仁天皇といひ

きくはうるそひく

後一位のりたり

牛車

牛車 二位をいさくといふり

寛弘八年八月在右大臣左京右牛車出入待賢門上東門

元大右源融寛平元年十月十九日聽聳車

右大臣源兼明天延二年二月廿八日聽聳車

兼平二年元大右京牛車出入上東門

わたりまきとまける

不忠 きくはうるそひく

わたりまきとまける

源とせりく親王よあ

世中

源のむ

天下の務

必 務と見

権中納言大納言

おは陰目よあな

後つり守眼の中

権先例とあ

い海

はち

らん

源の公

らん

らん

らん

命

命

らん

らん

この

源の

らん

命

らん

らん

らん

らん

一とありにをうく 源のうとらととらと

<sup>秘</sup> 薄雲にうくをうくおせいとととありに源のうとらと

秋好の常川におり <sup>秘</sup> 秋好中 <sup>秘</sup> 是より中交の

清よりととり源氏のうとらと <sup>秘</sup> 秋好中 <sup>秘</sup> 是より中交の

れうとらとありと入内をきま人の所よ常いそけおかり

ませおとなくとくそいかり <sup>秘</sup> 秋好中 <sup>秘</sup> 是より中交の

く母交女所のれおかり <sup>秘</sup> 秋好中 <sup>秘</sup> 是より中交の

秘よ源氏のうとらと <sup>秘</sup> 秋好中 <sup>秘</sup> 是より中交の

れうとらとありととらと <sup>秘</sup> 中交の細き人うとら

き <sup>秘</sup> 秋好中 <sup>秘</sup> 是より中交の

秋の清三葉院より <sup>秘</sup> 秋好中 <sup>秘</sup> 是より中交の

よとらと <sup>秘</sup> 秋好中 <sup>秘</sup> 是より中交の

い <sup>秘</sup> 秋好中 <sup>秘</sup> 是より中交の

これと憶友のうとらと <sup>秘</sup> 源の服衣のうとら

二 <sup>秘</sup> 源の服衣のうとら

ま <sup>秘</sup> 源の服衣のうとら

世中 <sup>秘</sup> 源の服衣のうとら

下 <sup>秘</sup> 源の服衣のうとら

せ <sup>秘</sup> 源の服衣のうとら

源 <sup>秘</sup> 源の服衣のうとら

公 <sup>秘</sup> 源の服衣のうとら

時 <sup>秘</sup> 源の服衣のうとら

む <sup>秘</sup> 源の服衣のうとら

此 <sup>秘</sup> 源の服衣のうとら

物 <sup>秘</sup> 源の服衣のうとら

かくまたとよわ

秘 秋好中 文とまじりてあきめ

いりー(の昔れと)といくくくはれ種を落けり小町

わりありて人き茶味の落れやうれ種のみんそありん

秘 赤いりー人のむーれ川空月を二流名かよりん

んくまうぬて 中交とほいしうまのり流のさうと

むー男女のあそんたりうこつあはるん

ひのうらつうしそ ああうらほよんてかりたうて

わのやとまのまじり 秘 源のさうりーこはるた路出のこ

秘 秋とにらりあやしんまうたりくと茶耀時代のおれ何り

をくしうりあうりしよまう好交のまよせーうとま

はぬよまをまじしとあまきくやまわりうあうらん作

秘 一に之系所息所のりーまふんうの宮いー川とほる居雲女座のり

このまじりー 秘 所息所のりー源とらうんてめ

わさまーれみ 秘 所息所のりー源とらうんてめ

かまうくしつーまうり 秋好とほのうーりめあ

秘 へえーけうりのむいあま

君ううようけようあまきなりと 秘 赤いりー糖とくせん

むいり水落きんと所息所のりのこか何とうと

秘 所息所のりーつめううくかりんて公りてあまこむい

ゆれ落りんやとりあこを公あまをよんあ

いまいりたたまひさーの 秘 居雲のりりーわ

秘 秋好中 文のりーと所息所のりー

秘 中比身のりーまうまう

くせんあうゆいあよあせーるれうーつうあよと

秘 せんーれ院よとせ

秘 必女里に東院ようりーあ

秘 公とふあうくぬ 是よりいとてさうわうあれりまうくは女里

の公りらぬの種とさうわうーいりーへー貧乏名せぬ公あり



















